

日本とヨーロッパの昔話

第3回講座終了後に受けた質問への回答

1月25日（日）に行われた「日本とヨーロッパの昔話」第3回講座に対していただいた質問の回答を以下掲載します。

皆様からいただいた質問は、個人情報等を抜いたうえで、質問にあたる部分だけ抜粋し掲載しています。また、一部表現などに手を入れさせていただいている場合がありますのでご了承ください。

【間宮史子先生への質問】

質問 異類だったものは魔法を解かれた後、人の姿になって人間と結婚をします。ヨーロッパでは魔法を解かれた後の人間を「半神半人」として試しているのでしょうか。

回答 私が講義でとりあげたヨーロッパの異類（動物）婚姻譚（人間と動物との婚姻を語る昔話）においては、魔法を解かれて人間の姿を取り戻した存在は「半神半人」とみなされていません。魔法をかけられて動物になっていた人間が元の人間に戻る、と語っています。ただ、ヨーロッパといっても広いので、「魔法を解かれた人間」に対して異なる観方が語られている昔話があるかもしれません。

質問 日本の昔話の多くは異類の親切を素直に受け入れず、正体を探って別れたり、また殺して幸せになります。一方、ヨーロッパの昔話は異類の親切や忠告を素直に受け入れて結婚して幸せになります。私は日本の昔話は本来ヨーロッパのように「受け入れる」話の方が自然ではないかと思うのです。なぜなら日本の昔話には人は自然からの恩恵を受けて暮らし、自然にいるものつまり異類へ畏敬の念を持っていることが語られているからです。「異類婚姻」を現代の「結婚」とは別のものとして捉える考え方はあるのでしょうか。

回答 この質問は、昔話が語っていることをどう捉えるかという解釈の問題にもつながります。質問者は「日本の昔話は本来ヨーロッパのように『受け入れる』話の方が自然ではないか」と思い、そのうえで「日本の昔話の多くは異類の親切を素直に受け入れず、正体を探って別れたり、また殺して幸せになるが、それは自然ではないのではないか、と考えられたのだと思います。

人間が異類にどう対するかは、異類の種類によって異なります。また、一話の中でも異なります。小澤俊夫は『改訂 昔話とはなにか』（小澤昔ばなし研究所、2009年）の第一章「5 日本の昔話の文芸的特質」で「猿婿入り」（猿婿一水乞い・嫁入り型）をとりあげ、次のように述べています。

父親は日本古来のそうした信仰（筆者注：田に水を入れてくれる猿を田の神と考える）を持っているようにみえる。それだからこそ、娘をやるといって、水を入れてもらったのであろう。神に娘を与える。これはもう、神への人身御供である。（…）

一方、長女、次女は猿なんかに嫁に行かないという立場である。ここに、日本人の古代以来の信仰の変化が象徴的にあらわれているといえよう。父親の立場は、古代の日本人の動物観を代表しており、娘たち

の立場は、中世以降の日本人の動物観を代表しているといえる。(『改訂 昔話とはなにか』、p. 98)

確かに、私が講義で扱った日本の動物婿譚では、娘が動物を殺し、動物の嫁にならずにすんで良かったという結末になることが多いです。また、日本の動物嫁譚では、動物が男に正体を知られ、男と動物が別れて終わることが多いです。これらの話では、人間と動物の婚姻は成立せず、人間と動物との間の区別がはっきりしているといえます。けれども、第4回の講義で扱ったように、人間と動物の恋愛や婚姻が成立する昔話があり、そのような話では、人間が動物を受け入れているといえます。

日本の昔話に限りませんが、昔話には人間と異類とのさまざまな関係が語られています。異類は、自然や異界と置き換えることもできるでしょう。その意味では、昔話における「異類婚姻」は、現代の「結婚」とは異なるもので、「異類婚姻」を通して、人間と動物、人間と自然、人間と異界との関係を語っているといえるでしょう。

【加藤耕義先生への質問】

質問 伝説に話型はあるのでしょうか。

回答 『メルヒェン百科事典』の「伝説 (Sage)」の項には、そのことが詳しく書かれています。1920年代以降、昔話だけでなく伝説も類型とモチーフによって分類しようとするさまざまな試みが世界で現れました。アールネの類型を拡張しようとする試みもあったし、独自の類型を試みるものもありました。多様になりすぎないために、研究者の間で会議が開かれ、各国の伝説カタログに対して拘束力を持つべき国際的な体系が作成され、次のような図式が想定されました。

1. 起源伝説および終末論的伝説
2. 歴史伝説および文化的伝説
 - 2.1 文化的場所・文化財の成立
 - 2.2 伝説と場所
 - 2.3 先史的事項
 - 2.4 戦争と災厄
 - 2.5 集団の中で際立つ人々
 - 2.6 秩序への違反
3. 超自然的存在と力／神話的伝説
 - 3.1 運命
 - 3.2 死神と死者
 - 3.3 幽霊の出る場所と出現現象
 - 3.4 霊の行列と戦い
 - 3.5 異界滞在
 - 3.6 自然霊
 - 3.7 文化的場所に属する霊
 - 3.8 変身した者たち

3.9 悪魔

3.10 疫病の悪霊と病気

3.11 超自然的（魔術的）な賜物や力を持つ人間

3.12 神話的動植物

3.13 財宝

4. 聖者伝（神々および英雄の神話）

ただ、この試みはほんの一部が作られたのみで、完成はしませんでした。

アールネ・トムソンのカタログ（AaTh（1961））では伝説はジャンルとして独立していませんが、各部の中には広く流布した伝説話型が繰り返し組み込まれています。たとえば AaTh 113「牧神パンが死んだ」、AaTh 365「レオノーレ」、AaTh 780「歌う骨」、AaTh 1645 A「グントラム」などです。ウターの新しい話型カタログ（ATU）でも ATU 476**「地下世界の産婆」、ATU 570 570*「ネズミ捕り男」、ATU 706 D「聖ウィルゲフォルティスと彼女のおごひげ」、ATU 759 E「サンスーシーの粉屋」、ATU 760***「揺り籠の救済」、ATU 779E*「コルベックの踊る者たち」などが含まれています。

質問 昔話が職業人の伝承の中で語られていたならば、職匠歌の伝説もまた同じ現場で昔話と一緒に語られていたと想像します。伝説が自然にリュティの様式理論を獲得して昔話の形に変わるということはあったでしょうか。寿命や老いを語った伝説から大まかなあらすじを残して昔話の笑話へ変えたいと望んだ語り手も多くいたのではないかと思います。

回答 まず、職匠歌について説明します。職匠歌は、韻文でリズムもしっかりした歌です。職匠歌人のグループがあって、競い合ったりしました。ですから、昔話の語りとは種類が違うので、同じ場で語られていたことはないと思います。ただ、そうした職匠歌人の歌が題材になって昔話が庶民の間で語られたことはあったと思います。たとえば、グリム童話の KHM 147「焼かれて若返った男」や KHM 180「エヴァの不揃いなこどもたち」などはハンス・ザックスが元話になっています。

次にジャンルを超えて語られるかということについて説明します。伝説から昔話へ、または昔話から伝説へという変化は大いにありうると思います。講義ではグリム童話集 KHM 39 (1)「こびとのビヒテルマン」とドイツ伝説集「DS 31「こびとの結婚式」を紹介しましたが、これらはジャンルこそ違いますが、かなり近い説話だと思います。

ジャンルは研究者があとから整理しただけなので、語り手たちは「昔話」と「伝説」を意識的に分類して語ることはなかったでしょう。そうした中で、共通のモチーフをもった伝説と昔話は生じうると考えられます。

質問 「浦島太郎」の主人公にとっての幸せのゴールは何だったのでしょうか。

回答 浦島太郎にとっての「幸せのゴール」は何だったのでしょうかね。竜宮城にそのまま残るという方法もあったでしょう。でもそれが「幸せのゴール」かどうかわかりません。

グリムの『ドイツ伝説集』DS 170「タンホイザー」も少し似ているので紹介します。

ドイツの騎士タンホイザーはヴェーヌスの山に入り、楽しい日々を過ごしますが、良心の呵責に促され、人の世界に戻ることを決意します。ヴェーヌスは、侍女を正妻に与えるとか、いつもほほ笑んでいる彼女の赤い唇を思い出ささいなどと誘惑しますが、タンホイザーの意志は固く、地上に戻ります。

タンホイザーはローマ教皇を訪ね、1年間ヴェーヌスのもとで暮らしたと懺悔をしますが、ローマ教皇は「この枯れ木の枝が青い芽をふくことがなければ、そなたは許されない」ときつくいいわたします。タンホイザーは失意でヴェーヌスの山に戻ります。タンホイザーが去って3日目に枯れ木が青い芽をふきます。教皇はタンホイザーの行方を知るために使者を送りますが、時すでに遅く、タンホイザーはヴェーヌスの山で妻をめぐっています。最後の審判のときには、神はおそらくタンホイザーに別の場所へ行けと命ずるでしょう。司祭たる者は、罪有る者が懺悔と食材を申し出たときには、失望させずに許してやらなければいけないのです。

酒や女におぼれて暮らすというのは、楽しそうではありますが、幸せのゴールではないという考え方は洋の東西を問わずあるようです。

【伊藤明美先生への質問】

質問 たとえ共通語が崩れたとしても、語った人の言葉の癖をそのまま残して伊藤先生が語り継いでいるお話がありましたら教えてください。

回答 わたしは共通語が母語なので、土地言葉で書かれた昔ばなしも共通語に再話します。が、語り部から耳で聞いた昔ばなしは、共通語に再話して語っていても、自然にその語り手の口調やリズムになります。『いちがぶらーんとさがった 笠原甚威昔話集』（横越語りサークル）所収「かえるの綿帽子」などがそうです。

質問 第2回の際に語られた、みつけどりについてです。おはなしのテキストは、『子どもに語るグリムの昔話』とのことでしたが、本の文章と語りとは、だいぶ言葉が違いました。語られたおはなしは、とても分かりやすかったのですが、どのような基準でテキストを編集、手直し、されているのか知りたくまりました。また、他のおはなしでも、語りやすく(分かりやすく)テキストを直すことをやられているのでしょうか？これは「再話」なのでしょうか？

回答 おはなしをテキストから覚えるときは、まず書いてあるとおりに覚えますが、相当な回数を語っていくうちに、聞き手の反応を受け止めて自然に変化していくことがあります。わたしが語った「みつけどり」も、30年くらい前に覚えてから何百回も子ども達に語っていくうちに変化したと思います。これは語り手の再話の範疇ですが、テキストに手を入れるのは、昔ばなしの理論に沿った再話の勉強をしたり、語りの経験を積んでからの方が良いでしょう。

「お話のことばは、ひとことでも本と違ったらいけないというようなものではありません」「昔話の場合は、物語の根幹である筋を変えるというのは論外として、言いまわしを変えるとか、接続などを補うとか、語ってい

るといつもだれる箇所を簡潔にするとかいった手直しはしてもいいと思います。」(『語る人の質問に答えて』松岡享子著 東京子ども図書館) こちらを参照してください。

【誰が回答してもかまわない・全講師に宛てた質問】

質問 日本とは違ってヨーロッパの昔話に出てくる神の多くは人の姿をしています。これは人間からみた神の「水準化作用」といえるでしょうか。

回答 「水準化作用」について、小澤俊夫は次のように説明しています。「舌切雀」において、爺が雀の宿を教えてもらうために、馬洗いにいわれて馬の小便を五杯飲み、牛洗いにいわれて牛の糞を五杯食べる場面です。

爺が馬の小便を飲むところは、水を五杯飲めといわれた、と書きかえてもよいほど、爺は平気で小便を飲んでいる。牛の糞についても同じで、それを、にぎり飯五個と書きかえてもよいほど平気で食べる。ということは、日本の昔話は、こうした汚いものを日常的なふつうの飲みもの、食べもののレベルにまで引き上げている、といえるのである。これは「水準化作用」といっていいようなはたらきである。汚いものを水準化して、日常のレベルにして語るというのは、日本の昔話を支配している日常的雰囲気によくかなっている。

ところで、水準化作用は、下のものを日常のレベルに引き上げるところにだけはたらくのではない。神聖なものを日常のレベルに引き下げるところにもはたらいている。(『改訂 昔話とはなにか』、p. 92)

そして、「浦島太郎」を例にあげ、次のように述べます。

昔話が語る龍宮でのもてなし方は、まるで日本の料理屋の歓迎と宴会風景ではないか。『丹後国風土記逸文』において人と神との厳粛な出会いであったものが、口伝えされているうちに、いつの間にか日常世界に近づき、料理屋の宴会風景になった。ということは、やはり水準化作用がはたらいたと考えられるのである。(同上、p. 93)

「ヨーロッパの昔話に出てくる神の多くは人の姿をしている、これは人間からみた神の『水準化作用』といえるだろうか」という質問ですが、「水準化作用は、神聖なものを日常のレベルに引き下げるところにもはたらいている」という小澤の言葉に従えば、「水準化作用」といえるでしょう。一方、小澤は「ヨーロッパの昔話と比較して、日常性、現実性の濃い日本の昔話を持っている作用として、水準化作用をいうことができると、私は考えている」(同上、p. 93)と述べており、「水準化作用」をヨーロッパの昔話を持つ作用として考えていないようです。ヨーロッパの昔話において神や精霊などが人の姿をとるとするのは、ヨーロッパ近世の思想の基調をなす人間中心主義によるところがあるのではないかと思います。(間宮)

質問 日本の昔話では「恩返し：受けた恩を報いること」(広辞苑5より)を異類が人間に向けてすることが多いように思います。ヨーロッパの昔話にも「恩返し」はあるのでしょうか。またヨーロッパの人々は日常

でもそのような考え方をするのでしょうか。

回答 ご指摘のとおり、日本の昔話では確かに報恩譚がよく見られます。鶴女房や地藏浄土、笠地藏など、さまざまな説話で見られます。

ヨーロッパの昔話にも「恩返し」は出てきます。ただし、異類女房のような報恩ではなく、援助者として困難から救ってくれることや、お金や宝などをくれることが多いようです。『国際昔話話型カタログ』から「恩返し」に関わる話型と「お礼」に関わる話型をピックアップしてありますので、参考してみてください。(加藤)

【恩が出てくるATU話型】

156B* 恩に報いるへび (旧, へびの産婆をする女) (旧話型738* を含む)

この雑録話型は、(例えばへびが戦ったり、子どもを産んだりするときに) へびを助ける人物(男, 女)が登場する多くの説話を包括する。へびはその人物に(黄金またはお金の) **お礼をする**。参照: 話型285A, 476*, 476**.

類話 (～人の類話) エストニア; ラトヴィア; アイルランド; ベラルーシ; トルコ; ユダヤ; レバノン; パレスチナ, ペルシア湾; 中国; 日本; リビア, アルジェリア.

160 恩に報いる動物たち, 恩知らずな男 [W154.8]

旅人がトラ(ライオン, カラス)と猿(熊)とへびと男(宝石屋)を穴(洪水で押し流されている木の幹)から救う。動物たちは救ってくれた旅人にお礼をするか、または旅人をいつか助けることを約束する。1匹の動物が、盗んだ装身具を旅人に贈る[B361]。男も同様に救ってくれた旅人にお礼を約束するが、後に取り消す。男は救ってくれた旅人が装身具を盗んだと王の前で訴える。旅人は罰せられることになる。へびは王の子どもをかみ、そのあと救ってくれた旅人に解毒剤を教えることで、旅人を救う[B522.1, B522.2, B512]。(参照: 話型 101.) 旅人は放免され、宝石屋は罰せられる。

しばしば旅人は男を救わないよう忠告される。

注 仏教伝説として3世紀に記録されている。

類話 (～人の類話) フィンランド; ラトヴィア; ノルウェー; アイルランド; イギリス; フランス; スペイン; カタロニア; ドイツ; イタリア; ハンガリー; チェコ; マケドニア; ブルガリア; ギリシャ; ポーランド; ロシア, ベラルーシ, ウクライナ; トルコ; ユダヤ; ダゲスタン; オセチア; シリア, イラク, カタール; イラン; インド; ビルマ; スリランカ; ネパール; 中国; 朝鮮; ベトナム; 日本; 北アフリカ, エジプト, リビア, チュニジア; アルジェリア; モロッコ; ギニア; 西アフリカ; エチオピア; 東アフリカ; スーダン; 中央アフリカ.

302 卵の中に隠された鬼の(悪魔の)心臓 (旧話型 302A*, 302B*, 425P を含む)

動物たちが食事を公平に分けるのを、若者が手伝ったので、若者は動物たちからお礼に、その動物の姿になる力をもらう(若者が動物たちの命を救ったので、または食べ物を与えたので、動物たちは若者に援助を約束する) [B393, B500, D1834]。参照: 話型554.

若者は鬼（巨人，竜，悪魔）にさらわれた姫を救いに行く（超自然の敵にさらわれた妻を救いに行く．参照：話型400） [R11.1]．若者はワシの姿で鬼の城に着き，アリの姿で姫の部屋に入る [D152.2, D182.2]．若者は姫から，鬼の心臓（生命力，魂）は鬼の体の外に隠されているので [E710]，鬼を負かすことはできないと教わる．姫は鬼から隠し場所を聞き出す [K975.2]．鬼の心臓は，何重にも動物たちの体に包まれて，卵（小さな箱）の中にある [E711.1, E713]．参照：話型590.

若者は姫の指示に従って，鬼の魂を見つける．そしてそれを破壊する（または**恩に報いる動物が若者のために鬼の魂を破壊する** [B571.1]）．鬼は死に [K956]，若者は姫と結婚する [L161]．参照：話型665.

コンビネーション 通常この話型は，1 つまたは複数の他の話型のエピソード，特に300, 301, 303, 303A, 304, 313, 316, 400, 425, 516, 518, 552, 554, 665, および302B, 314, 461, 465, 513, 550 のエピソードと結びついている．

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； ラトヴィア； リトアニア； ラップ； リーヴ，ヴェプス，カレリア； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； アイスランド； スコットランド； アイルランド； フランス； スペイン； バスク； カタロニア； ポルトガル； フリジア； フラマン； ドイツ； オーストリア； ラディン； イタリア； コルシカ島； サルデーニャ； マルタ； ハンガリー； チェコ； スロバキア； スロベニア； セルビア； クロアチア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ； ソルビア； ポーランド； ロシア； ベラルーシ，ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； アディゲア； チレミス／マリ； モルドヴィア； アルメニア； ヤクート； グルジア； シリア； レバノン； パレスチナ； イラク，クウェート； パキスタン； インド； ビルマ； 中国； 朝鮮； インドネシア； 日本； イギリス系カナダ； フランス系カナダ； 北アメリカインディアン； アメリカ； スペイン系アメリカ，メキシコ； マヤ； ドミニカ，プエルトリコ； パナマ； チリ，アルゼンチン； ブラジル； 西インド諸島； カボヴェルデ； エジプト； アルジェリア，モロッコ； 西アフリカ； スーダン； ナミビア．

505 恩に報いる死者（旧話型506-506B, 506**, 508 を含む）

1 つの導入部のエピソードが，男が姫と城を手に入れるさまざまな主部へと結びついている．結末も非常に類似している．

導入部のエピソード：

旅の途中，男は死体を目にする．お金を貸していた者たちは，その死体を埋葬することを許していない，またはその死体にひどい扱いをしている [Q271.1]．男は死者の借金の支払いと葬式のために自分の有り金すべてを使う．後に男は，そのことに感謝した死者に会う．死者は旅の道連れ（お爺さん，召し使い）の姿で，2人のもうけをすべて分けるという条件で [M241]，男を助けようとする [E341]．参照：話型507.

主部：

(1) 男はさらわれた姫を，奴隷状態から買い戻し，姫と結婚する [R111.1.6, L161]．男がよその国に行っている間に，姫の父親は，娘の紋章が刺しゅうされた船の帆に気づき，娘が活着していることを知る．男が妻を連れに旅から戻ると，妻は父親の廷臣の1人にさらわれてしまったあとである．男は妻を捜す旅に出る．そして旅の道連れは，男が妻の父親の宮殿に戻るのを手伝う [R163]．そこで男は，自分が姫の夫であることを明かし，花嫁を連れ戻す．（旧話型506A.）

(2) 男は強盗たちから若い女を救う．船で帰る途中，男は恋敵に船外に放り出されるが [S142]，旅の道

連れに救われ [R163] , 姫のところへ連れていかれる。男は指輪で、またはその他の方法で、姫を強盗たちから救った者だと認識される [H94.4, H11.1] 。恋敵は正体を暴かれ、罰せられる。(旧話型506B.)

(3) 旅の道連れはすばらしい馬を男に調達する。馬上試合が行われ、その勝者は姫と結婚することになっている [H972, H331.2] 。男は姫を得る。(旧話型508.)

結末：旅の道連れは、自分の取り分を求め、姫（彼らの赤ん坊）を分けようとする [M241.1] 。男が姫を救おうとして王国すべてを差し出すと、旅の道連れは、自分は感謝している死者であることを明かし、自分の要求は単に誠実さのテストだったと言い、姿を消す。

一部の類話では、恩に報いる死者は聖者で、ひどい扱いを受けている聖者の肖像画を主人公が買い戻したの
で [N848.1] , 主人公を助ける。(旧話型506**.)

コンビネーション 300, 301, 306, 307, 326, 400, 531, 550, 551, 580, 857.

注 導入部は紀元前2世紀に聖書外典の「トビト記」(II, 3-7)に記録されている。主部(1)を伴う類話はマドレーヌ・アンジェリク・ド・ゴメズ (Madeleine Angélique de Gomez) の『ジャン・ド・カレーの物語 (L'Histoire de Jean de Calais) 』(1723)に記録されており、主部(3)を伴う類話は13世紀の中世のノヴェレ『騎士の忠誠 (Rittertreue) 』に記録されている。

類話(～人の類話) フィンランド; エストニア; フィンランド系スウェーデン; ラトヴィア; リトアニア; ラップ; スウェーデン; ノルウェー; デンマーク; フェロー; アイスランド; アイルランド; フランス; スペイン; バスク; カタロニア; ポルトガル; オランダ; フリジア; フラマン; ワロン; ドイツ; スイス; オーストリア; ラディン; イタリア; マルタ; ハンガリー; チェコ; スロバキア; スロベニア; セルビア; マケドニア; ブルガリア; アルバニア; ギリシャ; ポーランド; ソルビア; ロシア; ベラルーシ; ウクライナ; トルコ; ユダヤ; ジプシー; チェレミス/マリ; モルドヴィア; アルメニア; タジク; モンゴル; グルジア; シリア; レバノン; パレスチナ; イラク; インド, スリランカ; 中国; インドネシア; 日本; イギリス系カナダ; フランス系カナダ; 北アメリカインディアン; フランス系アメリカ; スペイン系アメリカ; メキシコ; ドミニカ, プエルトリコ; マヤ; チリ; アルゼンチン; 西インド諸島; カボヴェルデ; エジプト; モロッコ; エリトリア; ナミビア, 南アフリカ.

531 賢い馬 (旧, 誠実なフェルディナンドと不誠実なフェルディナンド) (旧話型 513C を含む)

この雑録話型は、賢い馬を扱うさまざまな説話を包括する。この説話には、おもに次の3つの異なる型がある。「王の名づけ子と不誠実な旅の道連れ」, 「金の髪の乙女」, 「賢い馬」.

貧しい少年が、名づけ親 [H1381.2.2.1] である王 (神, 処女マリア, 等) を捜しに行く [N811] . 途中, 少年は賢い魔法の馬を手に入れ、馬は少年を助けることを申し出る [B211.1.3, B133, B401] . 馬の助言に逆らって [B341] , 少年はきらきら光る鳥の羽根 (金の髪, 金の蹄鉄, その他のきらびやかな物) を拾い、それをあとで王に与える.

途中で、旅の道連れ (悪魔, ひげのない男, ジプシー, 等) が少年に同行する。旅の道連れは少年に、立場を入れ替わることに、沈黙を誓うことを強いる [K1934] . 王の宮殿で少年は馬番として雇われる。少年はいろいろな動物たちを助け、動物たちはお礼に少年を助けることを約束する [B350, B391, B470, B501] .

王の不実な使用人 (少年の旅の道連れ) は、少年がその羽根を落とした鳥を見つけることができると自慢していたと言って、そして (または) 黄金の髪の乙女 (姫) を王の花嫁として連れてくることができると自慢し

ていたと言って、王に少年のことを中傷する [T11.4.1, H75.2, H1213.1, H1381.3.1.1] . 失敗したら死刑だと
して、危険な課題を成し遂げることが少年に課せられる。少年は馬の助けで成功する。

誘拐されてきた姫は、特定の物（彼女の城、海に落とした鍵、命の水、等）を受け取るまで、年老いた王と
結婚することを拒む。少年はこれらの物を、馬の助けや彼が道で出会った援助者（恩に報いる動物たち）の助
けで持ってくる [H982, B450] .

結婚の最後の条件として、姫は少年を（焼いて、首を落として、手足を切り落として、野生の雌馬の群れか
らとったミルクか油を沸騰させた風呂に入れて、死の水で、等）殺すことを要求する。馬が少年を救うか、ま
たは、少年は姫によって生き返らされ、若返らされ、美しくされる [E15.1, E12, D1865.1] . 王は同じことを自
分にもしてもらい、致命的な結果となる（姫は王を生き返らせない、王はミルクの中で死ぬ、等）

[J2411.1] .

魔法の馬は若い女（男）になる [B313, D131, D700] . 少年はこの若い女と（姫と）結婚し、王になる。参
照：話型 328.

コンビネーション 通常この話型は、1つまたは複数の他の話型のエピソード、特に314, 327B, 328, 550,
554 , および300, 300A, 302, 303A, 313, 400, 465, 502, 505, 513A, 513C, 516, 530, 551, 567, 590, 1119 のエピ
ソードと結びついている。

注 いくつかのモチーフは古典に起源を持つ。早期の版は、例えばバジール（Basile）の『ペンタメローネ
（Pentamerone）』（III, 7）, ストラパローラ（Straparola）の『楽しき夜（Piacevoli notti）』（III, 2）, オ
ーノワ夫人（Madame d' Aulnoy）の「黄金の髪の姫（La Belle aux cheveux d'or）」を見よ。

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； リーヴ； ラトヴィア；
リトアニア； ラップ, ヴェプス, ヴォート, カレリア, コミ； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク；
フェロー； アイスランド； アイルランド； フランス； スペイン； カタロニア； ポルトガル； ドイツ；
オーストリア； イタリア； コルシカ島； サルデーニャ； マルタ； ハンガリー； チェコ； スロバキア；
スロベニア； セルビア； クロアチア； ボスニア； マケドニア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ；
ソルビア； ポーランド； ロシア, ベラルーシ, ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； アディゲア；
チェレミス/マリ； チュヴァシ, タタール, モルドヴィア, ヴォグル/マンシ； クルド； アルメニア； ヤ
クート； ウズベク； タジク； モンゴル； グルジア； シリア； レバノン； パレスチナ； イラク； ペルシ
ア湾, オマーン, カタール； クウェート, イエメン； イラン； パキスタン； インド； 中国； フランス系
カナダ, フランス系アメリカ； スペイン系アメリカ, メキシコ； マヤ； ドミニカ； パナマ, プエルトリ
コ, チリ, アルゼンチン； ベネズエラ, ボリビア； 西インド諸島； エジプト； チュニジア； アルジェリ
ア, モロッコ； スーダン； ナミビア； マダガスカル。

537 恩に報いるワシに乗って飛ぶ（旧, 不思議なワシが主人公に箱をくれる）

男が3 回鉄砲でワシを狙う。突然そのワシが人間のように話すと [B211.3] , 男はワシを撃たずにおく。ワ
シは翼が折れており、男はすべての財産を使って、治るまでワシを数年間看病する。

感謝したワシは [B380, Q45] , 男を背中に乗せて、海を越えて [B552] , ワシの王国へと連れていく

[B222] . 途中（狩人が3 回狙ったのと同じく）ワシは男を3 回海に落としかけ、男を怖がらせる。

海の向こうで、ワシの父親（姉妹）が男に、家に帰るまで開けてはならないと言って [C321] , 箱を与える

[D1174.1] .

好奇心に負けて、男は箱を途中で開ける。すると町（城）が箱から飛び出す。町を箱に戻すために、男は（これから生まれる）息子を悪魔（超自然の存在）に与えると約束する [S222] .

この説話はふつう、話型313B の導入部である。

コンビネーション 222B, 222B*, 300, 313, 315.

注 この説話はバビロニアの『エタナ神話 (Etana myth) 』（紀元前18, 17 世紀）に由来する。

類話（～人の類話） フィンランド； ラトヴィア； リトアニア； カレリア； コミ； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； オランダ； ドイツ； ハンガリー； スロバキア； クロアチア； マケドニア； ルーマニア； ロシア； ベラルーシ； ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； アブハズ； モルドヴィア； アルメニア； シベリア； オスチャック； カラカルパク； ウズベク； トゥヴァ； グルジア； サウジアラビア； オマーン； 中国； アルジェリア。

554 恩に報いる動物たち（旧話型553, 554*, 554A*-C*, 556A*-E* を含む）

この雑録話型は、恩に報いる動物の援助の行為を扱うさまざまな説話を包括する。多くの説話でこの話型はエピソードとしてのみ現れる。類話のほとんどは以下の基本的な構造を示している。

男が旅の途中、困っている3匹の動物（空の動物と水の動物と地中の動物）に出会う。男が動物たちを救ったので、動物たちは必要になったら男を救うと約束する。後に男は姫に恋をするが、姫の父親は男が成し遂げなければならない3つの不可能な課題を設ける。恩に報いる動物たちの助けで、男は3日続けて成功し

[B582.2, H982, B571] , 姫を得る。

一部の類話では、男が兄たちに付き添われる部分加わる。兄たちが動物たちを傷つけようとする、男は、兄たちがそれを止めるか、または兄たちの悪い行為と不注意の埋め合わせをする。兄たちがアリ塚を踏みつぶすと、男はそれをつくり直し、兄たちが傷ついた動物たちをほうっておくと、男が世話をする、等。

コンビネーション 通常この話型は、1つまたは複数の他の話型のエピソード、特に300, 302, 400, 531, および303, 313, 314, 317, 329, 402, 465, 513A, 513B, 551, 552, 552A, 556F*, 560, 570, 610, 613, 667, 673 のエピソードと結びついている。

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； リーヴ； ラトヴィア； リトアニア； ラップ； リーヴ, ヴェプス, カレリア, コミ； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； スコットランド； アイルランド； イギリス； フランス； スペイン； カタロニア； ポルトガル； フラマン； ドイツ； オーストリア； ラディン； イタリア； サルデーニャ； マルタ； ハンガリー； チェコ； スロバキア； スロベニア； クロアチア； マケドニア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ； ソルビア； ポーランド； ロシア, ベラルーシ, ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； アディゲア； チェレミス/マリ； クルド； アルメニア； ヤクート； タジク； カルムイク； モンゴル； グルジア； シリア； レバノン； パレスチナ； イラク； サウジアラビア； イラン； パキスタン； インド, スリランカ； ビルマ； スリランカ； 中国； 朝鮮； インドネシア； 日本； フィリピン； フランス系カナダ, フランス系アメリカ； スペイン系アメリカ, メキシコ； キューバ； プエルトリコ； マヤ； アルゼンチン； 西インド諸島； エジプト； リビア； アルジェリア； モロッコ； ギニア； 東アフリカ； スーダン； 中央アフリ

カ； アンゴラ； ナミビア； マダガスカル。

560 魔法の指輪

少年が、犬と猫とへびが殺されるのを救うために、それらを買取る（少年はへびを火から救う）。お礼に少年は、何でも願いのかなう魔法の指輪（石）をへびの王（救われたへびの父親）からもらう [D810, D812, D1470.1, D1470.1.15, D817.1, B360, B505, B421, B422]（少年が指輪を見つける [D840]）。願いのかなう指輪で [D1662.1] 少年は魔法の城を建て [D1131.1]，不可能な課題を成し遂げる（城，ガラスの橋，ろうの教会，等を1 晩で建てる）。

少年は姫と結婚するが，姫には愛人がいる。姫（姫の愛人 [D861.4]，その他の人物）は，願いのかなう指輪を少年から盗み [D861.5, K2213]，自分と城を（愛人は姫もろとも城を）遠くの島に運ぶよう願う

[D2136.2]。姫の夫はまた貧しくなる。恩に報いる犬と猫は城まで泳いでいき，ネズミの助けて [K431] 指輪を取り返す [D882, B548.1, D882.1.1]。

帰り道，動物たちは指輪を海でなくすが，魚（ザリガニ）が返してくれる。最後に少年は自分の指輪と城と妻を取り戻す。少年は愛人を（不実な妻を）罰する。参照：話型561, 562。

コンビネーション 561.

注 類話の中では，話型560, 561, 562 はしばしば混ざり合っているか，または明確に区別されていない。重要な版はバジレ（Basile）の『ペンタメローネ（Pentamerone）』（IV, 1）を見よ。

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； ラトヴィア； リトアニア； ラップ； リーヴ， ラップ， ヴェプス， リュディア， カレリア， コミ； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； アイルランド； イギリス； フランス； スペイン； カタロニア； ポルトガル； フリジア； フラマン； ドイツ； イタリア； コルシカ島； ハンガリー； チェコ； スロバキア； スロベニア； セルビア； クロアチア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ； ポーランド； ロシア； ベラルーシ； ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； アブハズ； チェレミス／マリ； タタール， モルドヴィア； アルメニア； ヤクート； タジク； カルムイク， ブリヤート， モンゴル； グルジア； シリア； アラム語話者； パレスチナ； ヨルダン； イラク， オマーン， クウェート， カタール， イエメン； サウジアラビア； イラン； パキスタン； インド； スリランカ； ビルマ； ネパール； 中国； 朝鮮； インドネシア； 日本； フランス系カナダ， フランス系アメリカ； スペイン系アメリカ， メキシコ， グアテマラ； ドミニカ， プエルトリコ， チリ； マヤ； ベネズエラ， エクアドル， アルゼンチン； 西インド諸島； カボヴェルデ； エジプト； アルジェリア； モロッコ； ギニア， 東アフリカ； スーダン； タンザニア； マダガスカル。

585 紡錘と杼と縫い針

王子が，最も貧しく同時に最も裕福な女の子と結婚したが [H1311.2]。紡錘と杼と縫い針が，徳の高い女の子の勤勉さに対する恩返しとして，彼女を助ける。紡錘は王子を女の子のところへ導き [D1425.1]，杼は魔法の道をつくり [D1484.1, D1485.1]，縫い針はみすばらしい部屋を美しい部屋に変える [D1337.1.7]。王子は女の子と結婚する。

類話（～人の類話） スコットランド； アイルランド； ドイツ； レバノン； アメリカ。

610 病気を治す果物

病気の姫を（果物で）治療できる者に、姫が与えられることが約束される [T68.1, H346] . 3 人兄弟の末の弟が成功する [Q2, L10, L13] . 兄たちは小男の質問に不快そうに返事をするが、そのあと末の弟は小男（お爺さん、**恩に報いる動物**）に親切にし、小男は末の弟に病気を治す果物をくれる [N825.3, D1500.1.5] .

結婚式が執り行われる前に、王は末の弟に不可能な課題を与える。小男は末の弟を再び助ける。末の弟は、水上よりも速く陸上を走る船をつくらなければならない（参照：話型513B）, 100 匹の穴ウサギの番をしなければならない（参照：話型570）, 魔法の鳥の羽根を取ってこなければならない（参照：話型461）.

末の弟は課題を成し遂げ、金持ちになって戻り、王の高慢の鼻を折り、姫と結婚する [L161] .

または、王は同じ富を得るために彼のまねをする。湖を渡るときに渡し守は王を水に落とし、王は溺れ死ぬ。若い求婚者は王国を手に入れ、姫と結婚する。参照：話型551.

コンビネーション 461, 513B, 517, 550, 554, 570, 671, 725, 1610.

類話（～人の類話） フィンランド系スウェーデン； ラトヴィア； スウェーデン； デンマーク； フェロー； アイルランド； フランス； スペイン； カタロニア； ポルトガル； フラマン； ドイツ； ラディン； イタリア； サルデーニャ； チェコ； クロアチア； ポーランド； ロシア, ウクライナ； トゥヴァ； インド； フランス系カナダ； スペイン系アメリカ； エジプト, アルジェリア.

670 動物の言葉がわかる男（旧、動物の言葉）

恩に報いるへビが、動物の言葉がわかる力を男に授け [B350, B491.1, B165.1, B216] , もし男が秘密を漏らしたら、男は死ぬことになるかと告げる [C425] .

あるとき男は動物たちが話しているのを聞いて笑う。好奇心の強い妻はなぜ彼が笑ったのか知りたがる [N456] . 妻のしつこさに疲れて、男は今にも屈して妻に話そうとする [T253.1] . するとオンドリが、自分はいかにたやすくたくさんの女たちを支配していることか、それに対しあの男は1 人の妻も支配できない、と言うのを聞く [N451, B469.5, T252.2] . 男は秘密を守り、妻に何も話さない。参照：話型517, 671, 673.

コンビネーション 207A, 671.

注 おそらくインド起源, ヨーロッパの文献版は中世に初めて見られる。例えば『ゲスタ・ロマノールム (Gesta Romanorum) 』 (nos. 55, 61, 84) . そして後にイタリアのノヴェラにも見られる。ジローラモ・モリーニ (Girolamo Morlini) (No. 71) を見よ.

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； リーヴ； ラトヴィア； リトアニア； ヴェプス, リュディア, カレリア； スウェーデン； デンマーク； フェロー； アイルランド； フランス； スペイン； カタロニア； ポルトガル； フラマン； ドイツ； イタリア； コルシカ島； サルデーニャ； マルタ； ハンガリー； チェコ； スロバキア； スロバキア； スロベニア； セルビア； マケドニア； ルーマニア； ブルガリア； アルバニア； ギリシャ； ポーランド； ロシア, ベラルーシ, ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； アディゲア； チェレミス/マリ, モルドヴィア, ヴォチャーク； アルメニア； カルムイク； グルジア； シリア； パレスチナ； イラン； インド, スリランカ； ベトナム； 中国； 朝鮮； インドネシア； 日本； フランス系カナダ； アメリカ； スペイン系アメリカ, メキシコ； ドミニカ, プエルトリコ； 南アメリカインディアン； マヤ； ボリビア, アルゼンチン； 西インド諸島； カボヴェルデ； エジプト, アルジェリア； モロッコ； 西アフリカ； 東アフリカ； スーダン； エリトリア； 中

中央アフリカ； コンゴ； ナミビア； 南アフリカ； マダガスカル。

673 白へびの肉（旧話型671C* と672D* を含む）

警告に逆らって、召し使い（料理人）が（王の鍋から）白へびの肉を食べ、その結果召し使いは動物たち（鳥たち）の言葉がわかるようになる [B217.1.1]（参照：話型670, 672（1））。

または、ある少年（御者）が、呪医（農夫）の用意した白へびの肉を味見して、その結果草木の言葉がわかるようになる。（旧話型672D*。）

召し使いが指輪を盗んだ罪を着せられたとき、召し使いはこの能力で無実を証明することができる。カモたちの会話を盗み聞きして、カモの1羽が妃の窓から落ちた指輪を飲み込んだことを知る [N451]。（旧話型671C*。）

召し使いはカモをつぶすよう命じ、指輪は見つかる。そして召し使いは救われる。（召し使いは、指輪が恩に報いる魚の胃の中にあることを知り、魚が指輪を返す（参照：話型736A）。）

コンビネーション 305, 554.

注 通常この話型は話型554 と結びついている。話型554 はこの導入部に続く。

類話（～人の類話） フィンランド； エストニア； ラトヴィア； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； スコットランド； アイルランド； フランス； ドイツ； チェコ； スロバキア； スロベニア； セルビア； ポーランド； ベラルーシ，ウクライナ； トルコ； チェレミス／マリ； グルジア； サウジアラビア； 中国； ブラジル。

821A 悪魔に救われた泥棒

（悪魔と同盟を結んだ、かつて悪魔に親切にした）無実の男が窃盗で起訴される。原告は、悪魔に取られることに賭けても [C12.2] 男が有罪であると言う。悪魔は法廷から原告（裁判官）を連れ去ることで被告人を助ける [G303.22.11]（こうして、被告の親切に対して恩返しをする [Q45.2]）。参照：話型1186。

類話（～人の類話） フィンランド； エストニア； スウェーデン； デンマーク； ノルウェー； イギリス； スペイン； ポルトガル； オランダ； フリジア； ドイツ； スイス； イタリア； チェコ； ポーランド； ロシア，ウクライナ； タジク； メキシコ； ブラジル。

【お礼が出てくるATU話型】

75 弱者の助け

参照：話型233B. この説話には、おもに3つの異なる型がある。

(1) ライオン（トラ，熊，象）がハツカネズミ（リス，クマネズミ）を捕まえる（ハツカネズミがライオンの安眠を妨害する）。ハツカネズミは、放してくれと懇願し、いつかライオンを助けに来ると約束する。ライオンは笑うが、ハツカネズミを放してやる。後にライオンが網にかかったとき（穴にはまったとき，ロープで縛られたとき），ハツカネズミがやって来て、かじってライオンを解き放つ（砂で穴を埋める） [B371.1, B363, B437.2]。

(2) ハツカネズミ（クマネズミ）が網の下に駆け込むと、そこには猫が捕らえられている。危険が通り過ぎると、ハツカネズミは、猫が自分を食べなかったお礼として、猫を救い出すために網をかみ切る。ハツカネ

ズミは、自分たちの友情が長くは続かないことを残念に思うと言う [J426, 参照B545.1] .

(3) ライオンが、網から自分を助けてくれとハツカネズミに頼む。ハツカネズミは、助ける代わりにライオンの娘との結婚を要求する。初めライオンは、娘を結婚させることを拒むが、あとで同意する。娘ライオンは(うっかり)ハツカネズミを踏みつぶす。参照：話型233B.

コンビネーション 157A.

注 『イソップ寓話』 (Perry 1965, 450 No. 150) .

類話 (～人の類話) フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； リーヴ； ラトヴィア； アイルランド； フランス； スペイン； カタロニア； オランダ； フリジア； ドイツ； イタリア； ハンガリー； チェコ； スロベニア； セルビア； マケドニア； ブルガリア； ギリシャ； ウクライナ； ユダヤ； タタール； ヤクート； ウズベク； トルクメン； タジク； グルジア； シリア； イラク； サウジアラビア； イラン； インド； 中国； チベット； 日本； フランス系アメリカ； 西インド諸島； エジプト； アルジェリア， モロッコ； ギニア， 東アフリカ； スーダン； タンザニア； コンゴ； アンゴラ； 南アフリカ； ナミビア； マダガスカル.

150A* カエルの忠告 (旧話型278C* を含む)

農夫が、冬の間カエルを置いてやることにする。するとカエルはお礼に3つのありふれた忠告をする [K604] .

カエルは、さんざん殴られて、そのせいでせむしになる [A2356.2.1] . (旧話型278C*.)

類話 (～人の類話) フィンランド； エストニア； ラトヴィア； リトアニア； スペイン.

303 双子または血を分けた兄弟 (旧話型553 と581 を含む)

女が魔法の魚 (リンゴ， 水) を食べたあとに [T511.5.1, T511.1.1, T512] , 双子を生む。 (参照：話型705A.) 双子の兄弟が動物たちを殺さなかったので， そのことに感謝した動物たちが， 成長した兄弟のお供をする。 または動物たちが自分たちの子どものうち1匹または複数の子どもを兄弟に与える。 (兄弟は珍しい動物たちをもらう。 または珍しい動物たちを獲得する。 または珍しい動物たちを育てる。 一部の類話では， 動物たちは兄弟と同時に生まれる [T589.7.1] .)

兄弟の1人が， 自分の動物たちを連れて出発する。 兄弟は別れるとき， 彼らのうち1人が死の危険に陥って助けを必要としているときに警告を発する生命のしるしを定める。 そのしるしとは， 水が濁る， 植物か木が枯れる， 木に刺したナイフが錆びる， 等である [E761] . 1人目の兄弟は姫 (3人の姫) を竜 (トロルたち) から救い出し， 姫の救済者を装ったペテン師 (「赤い騎士」) の正体を暴き， 姫と結婚する [R111.1.3, K1932, H83, L161] . 参照：話型300.

警告に逆らって， 主人公は明かりのあとをつける [G451] (主人公は動物に誘惑される) . 主人公は魔女の魔力に落ちて， 石に変えられる [D231] . 主人公の双子の兄弟は， 生命のしるしによって警告を受け， 主人公を探索する旅に出る。 双子がそっくりだったので， 姫は主人公の兄弟を自分の夫と間違える [K1311.1] . 夜， 主人公の兄弟はベッドで自分と義理の姉妹の間に抜き身の剣を置く [T351] . それから彼は魔女を見つけて， 主人公の魔法を解かせて， 魔女を殺す。 主人公は， 自分の兄弟が自分の妻と寝たことを知り， 嫉妬から彼を殺す [N342.3] . あとで彼は妻に， なぜベッドに剣を入れておいたのかと尋ね， 自分の兄弟が潔白であったと知

る。殺された兄弟は魔法の手段（命の水）によってよみがえらされる [B512]。

一部の類話では、若者がカラス（ツル、ワシ）の命を救う。お礼として、彼は魔法の道具を手に入れる。若者は、海の怪物との戦いに勝ち、3人の姫を救い出し、そのうちのいちばん若い姫と結婚する。（旧話型553.）
コンビネーション 通常この話型は、1つまたは複数の他の話型のエピソード、特に300, 302, 314, および304, 313, 315, 318, 327B, 513A, 550, 554, 705A, 1000, 1003, 1006, 1051, 1052, 1072, 1088, 1120のエピソードと結びついている。しばしば話型567が導入部となる。

類話（～人の類話） フィンランド；フィンランド系スウェーデン；エストニア；ラトヴィア；リトアニア；ラップ；リーヴ、カレリア；スウェーデン；ノルウェー；デンマーク；フェロー；スコットランド；アイルランド；フランス；スペイン；カタロニア；ポルトガル；オランダ；フリジア；フラマン；ワロン；ドイツ；オーストリア；ラディン；イタリア；サルデーニャ；マルタ；ハンガリー；チェコ；スロバキア；スロベニア；ボスニア；ルーマニア；ブルガリア；ギリシャ；ポーランド；ロシア；ベラルーシ、ウクライナ；トルコ；ユダヤ；ジプシー；オセチア；アディゲア；チェレミス／マリ；チュヴァシ、モルドヴィア；ヴォグル／マンシ；アルメニア；ヤクート；トルクメン；タジク；グルジア；シリア；パレスチナ；ヨルダン；イラク；イラン；インド；中国；インドネシア；日本；フランス系カナダ；北アメリカインディアン；アメリカ；フランス系アメリカ；スペイン系アメリカ，メキシコ；ドミニカ，プエルトリコ，アルゼンチン；ブラジル；チリ；西インド諸島；カボヴェルデ；エジプト，リビア，アルジェリア，モロッコ；東アフリカ；ナミビア；マダガスカル。

314 黄金の若者（旧，馬に変身させられた若者）（旧話型532を含む）

この話型では、さまざまな導入部のエピソードが、共通した主部に結びつく。参照：話型314A, 502, 530.

導入部のエピソード：

(1) （しばしば魔法的な受胎のお礼として）デーモン（悪魔，巨人）に少年が与えられる約束がなされるか [S211]，または少年が自ら進んでデーモンの家で召し使いになる [G462]。デーモンは少年に、2匹（2グループ）の動物たちの世話をするよう命じ、1匹には餌を与え、もう1匹はほうっておくよう命ずる。少年はこの指示に従わず、その結果虐待されていた動物（魔法の馬）と友達になる [B316]。デーモンの禁令に逆らい、少年はある部屋に入る [C611]。禁令違反のしるしとして、少年の髪は金色になる [C912]。少年と魔法の馬は呪的逃走によってデーモンから逃げる [D672]。

(2) 少年（通常は支配者の息子）と魔法の子馬は親友である。母親（継母）は少年を殺そうとする。魔法の子馬は、母親がひそかに少年を殺そうと企んでいると少年に警告する。とうとう母親は、少年または子馬を殺すよう要求する。少年は同意するふりをするが、最後に1度だけ子馬に乗らせてくれと父親に頼む。乗っている間に、馬は少年といっしょに逃げる [B184.1.6]。

(3) 魔法的な受胎のお礼に、少年がデーモンに与えられることが約束される [G461]。デーモンの家に行く途中、少年は警告を受ける（デーモンを殺す方法、またはデーモンから逃げる方法を教えられる）。デーモンの家の部屋で、少年は幽閉されている者たち、または死体を見つける（そして少年の髪は金色になる [C912]）。少年はデーモンを殺し、逃げる。

主部：

若者は金色の髪を覆い、白癬頭のふりをして、庭師として王宮に仕える [K1816.1]。（若者は「わたしは知

らない」という言葉以外には何も言わない [C495.1] . 旧話型 532.) しかし末の姫は、若者が本当の姿でいるところ (3回庭を破壊しては修復する金髪の騎士) [H75.4] を見る。姫は黄金の若者に恋をし [T91.6.4] , そして黄金のリングを若者に投げて若者を夫に選ぶ [T55.1] . 彼らは結婚するが、怒った王は2人をみすぼらしい住まいに追放する [L132, L113.1.0.1] .

王は義理の息子たちに援助を求める。黄金の若者はみすぼらしい装備しか持っておらず、あざ笑われる。魔法の馬の助けで、若者は次のような多くの英雄的な行為を成し遂げる。若者は、目が見えなくなった王のために魔法の薬 (例えば鳥のミルク、命の水) を手に入れる (参照: 話型551) , 竜を殺す (参照: 話型300) , 変装して外国の軍隊を3回負かす。若者はけがをし、王に包帯を巻いてもらう。若者は3回立ち去り、愚か者とあざ笑われる。参照: 話型530.

黄金の若者の正体が (例えば傷によって、包帯によって) 露見し、本当の身分が知られる [H55, H56] . 馬は首をはねてくれと頼み、そして馬は王子 (姫、その他の人物) になる。

コンビネーション 通常この話型は、1つまたは複数の他の話型のエピソード、特に217, 300-303A, 313, 314A, 315, 321, 325, 327, 327B, 400, 441, 475, 502, 511, 530, 530A, 531, 550, 551, 552A, 554, 590, 613, 725, 1049, 1052, 1060 のエピソードと結びついている。

注 構造と内容が似ているために、話型532 はここに含まれている。

類話 (～人の類話) フィンランド; フィンランド系スウェーデン; エストニア; ラトヴィア; リトアニア; リーヴ; ラップ; カレリア; スウェーデン; ノルウェー; デンマーク; フェロー; アイスランド; アイルランド; フランス; スペイン; バスク; カタロニア; ポルトガル; オランダ; フリジア; フラマン; ドイツ; オーストリア; ラディン; イタリア; コルシカ島; サルデーニャ; マルタ; ハンガリー; チェコ; スロバキア; スロベニア; セルビア; クロアチア; マケドニア; ルーマニア; ブルガリア; ギリシャ; ポーランド; ロシア, ベラルーシ, ウクライナ; トルコ; ユダヤ; ジプシー; オセチア; アディゲア; チェレミス/マリ; チュヴァシ, タタール; モルドヴィア, ヴォチャーク; アルメニア; ヤクート; タジク; グルジア; シリア; レバノン, パレスチナ, ヨルダン; イラク, イエメン; ペルシア湾; サウジアラビア, オマーン, クウェート, カタール; イラン; アフガニスタン; パキスタン, インド; ビルマ; スリランカ; 中国; 朝鮮; インドネシア; 日本; フランス系カナダ; 北アメリカインディアン; スペイン系アメリカ; メキシコ, コスタリカ, パナマ; ドミニカ; プエルトリコ; マヤ; チリ; 西インド諸島; カボヴェルデ; エジプト, アルジェリア; チュニジア; モロッコ; 東アフリカ; スーダン; ナミビア.

316 水車池の女の水の精霊

貧しい漁師 (粉屋) が、自分の息子を女の水の精霊に [F420.1.2] 与えると (知らずに) 約束し [S240] , 女の水の精霊は漁師を裕福にする。両親は子どもを水から遠ざけておく。

約束の時が来ると、息子は父親がした約束を知り、逃げる。途中で若者は、動物の死骸をライオン, ワシ, アリ (その他の動物たち) に、その動物の特徴に配慮して分配してやる。感謝した動物たちから、お礼に動物たちの姿に変身する力をもらう。この力を使って、若者は姫を妻にする。

ある戦いに勝ったあと (狩りの間) , 若者は水の近くに来て、女の水の精霊に捕まり、引きずり込まれる (呑み込まれる) [F420.5.2.2] . 若者の妻は貴重な物 (3つの黄金のリング) を差し出して、女の水の精霊を

水面へとおびき寄せる。これらの物と交換で、女の水の精霊は妻に夫を見せる。女の水の精霊は、最初は夫の頭まで、次に腰まで見せる。女の水の精霊が夫の全身を見せたとき、夫は鳥に変身して逃げる [R152, D642.2] .

コンビネーション 302, 329, 665.

注 最初の記録は、16世紀ストラパローラ (Straparola) の『楽しき夜 (Piacevoli notti) 』 (III, 4) に記録されている。

類話 (～人の類話) フィンランド系スウェーデン; ラトヴィア; ラップ; リュディア, カレリア; スウェーデン; ノルウェー; デンマーク; スコットランド; アイルランド; フランス; スペイン; カタロニア; オランダ; ドイツ; ラディン; ハンガリー; ブルガリア; ギリシャ; ロシア; ジプシー; チェレミス/マリ; フランス系カナダ; アメリカ; スペイン系アメリカ; メキシコ; ドミニカ; プエルトリコ; チリ; 西インド諸島.

403 黒い花嫁と白い花嫁 (旧話型403A と403B を含む)

継母は継子たちを嫌っている [S31] . 継娘は出会った人 (例えば, キリストと聖ペトルス) に親切にする (継娘は, 冬にイチゴを摘みに行かされ [H1023.3] , こびとたちに出会い, こびとたちが彼女を助ける) . お礼に継娘は, たいへんな美しさ [D1860] (口から黄金か宝石を出す力 [D1454.2, D1454.1.2]) を授かる. 継母の実の娘は, 同じ状況で不親切にし, 醜くされる [D1870] (口からヒキガエルが出るようにされる [M431.2]) [Q2] .

継娘の兄は王の宮殿に仕えている. 兄は妹が描かれた絵を持っている. 王がその少女の絵を見て, 彼女に恋し, 兄に妹を呼びに行かせる [T11.2] (王か王子が, 偶然に美しい継娘を見て, 王は彼女と結婚する [N711, L162]) .

兄と妹が王の宮殿に行く途中, 継母または継母の実の娘が本当の花嫁を馬車から追い出す (船から落とす) [S432] . 王は醜い継母の実の娘と結婚し [K1911] , 兄は牢屋か, へびのたくさんいる穴に放り込まれる [Q465.1] . (王の妻は子どもを産む. 継母は王の妻とその子どもを水に投げ入れ, 実の娘を花嫁とすり替える [K1911.1.2] .)

本当の花嫁は, カモ (ガチョウ) になり [D161.2] , (子どもの世話をしに [D688]) 3回王の宮殿にやって来る. 最後の晩, 王は起きていて, 彼女の首をはね (黄金のベルトを切り, 連続して変身する間に彼女を抱き抱え [D712.4]) 魔法を解く [D711] .

兄はへびの穴で傷を負うことなく [B848] 救われる. 本当の花嫁は結婚するか, または本来の地位に戻され, にせの花嫁と彼女の母親は罰せられる [Q261] . 参照: 話型450, 480, 510B, 511.

コンビネーション 通常この話型は, 1つまたは複数の他の話型のエピソード, 特に480, 510A, および311, 313, 408, 409, 425, 450, 451, 510B, 511, 533, 707, 709 のエピソードと結びついている.

類話 (～人の類話) フィンランド; フィンランド系スウェーデン; エストニア; リーヴ; ラトヴィア; リトアニア; ラップ, ヴェプス, カレリア; スウェーデン; ノルウェー; デンマーク; フェロー; アイスランド; アイルランド; フランス; スペイン; カタロニア; ポルトガル; オランダ; フラマン; ワロン; ルクセンブルク; ドイツ; オーストリア; イタリア; サルデーニャ; ハンガリー; チェコ; ス

ロバキア； スロベニア； セルビア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ； ソルビア； ポーランド； ロシア； ベラルーシ， ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； チュヴァシ， ヴォチャーク； ヤクート； カルムイク； ブリヤート； モンゴル； グルジア； シリア， ヨルダン， イラク， ペルシア湾； パレスチナ； イラク； イラン； インド； ビルマ； スリランカ； 中国； 朝鮮； 日本； フランス系カナダ； 北アメリカインディアン； アメリカ； スペイン系アメリカ； メキシコ； キューバ， ドミニカ， プエルトリコ， チリ； マヤ； 西インド諸島； カボヴェルデ； エジプト； チュニジア， アルジェリア， モロッコ； 東アフリカ； ナミビア； ボツワナ； 南アフリカ； マダガスカル。

425B 魔女の息子（旧，魔法を解かれた夫：魔女の課題）（クピドとプシュケ（Cupid and Psyche））（旧話型 425J, 425N, 428 を含む）

この話型では，さまざまな導入部のエピソードが共通した主部に結びつく．参照：話型425A.

導入部のエピソード：

若い女が次のように超自然の花婿と結婚する．

- (1) 父親に旅から持って帰るよう頼んだ贈り物のために，若い女が花婿と結婚させられる．
- (2) 花婿は一連の難しい課題を成し遂げる．
- (3) 若い女がハーブを引き抜いて，花婿の地下の城を発見する（風がそこまで彼女を運ぶ）．
- (4) 若い女は別の方法で花婿を見つける．

花婿は魔女（鬼女）の息子であるか，または（昼間は）動物である [D621.1] ．

主部：

若い女は花婿の禁令を破り（参照：話型425A），花婿は去る [C932] ．（去る前に，花婿は若い女に，例えば指輪や羽根といったしるしを授ける．）（鉄の靴を履いて）若い女は花婿を捜しに出かける [H1385.4, H1125] ．

花嫁が花婿の母親である魔女の家にやって来ると，魔女は息子の名にかけて花嫁を食べないと誓う．魔女は，以下のような難しい課題を若い女に課し，若い女はその課題を（花婿の助けで）成し遂げる．大量の穀物を選び分ける [H1122] ，すべての種類の鳥の羽根をマットレスに詰める，黒い羊毛を洗って白くし，白い羊毛を洗って黒くする [H1023.6] （参照：話型1183），家を掃き掃除して，掃かれていないままにする [H1066] ，等．一部の類話では，若い女は（3 人の）求婚者に魔法をかけ，彼らを戦わせる．（旧話型425Nの一部．）参照：話型313, 875.

若い女は，魔女の姉妹のところから小箱を取ってくるために危険な旅に出される．若い女は（花婿の助言で）障害を乗り越え小箱を手に入れるが，小箱を開けることを禁じられる．（参照：話型408, 480.）花嫁が禁令を破ると，夫が花嫁を助ける．

花婿と魔女の娘の結婚式のとき，若い女は10本の火のついたろうそく（たいまつ）を持たなければならない．花婿は彼女がやけどをしないよう守る．

若い女は再び花婿と結婚するか，または2人が呪的逃走（変身による逃走）で逃げる [D671, D672] ．

一部の類話では，女のデーモン（魔女）が，不可能な課題を達成することを若い女に要求する [G204, H1010, H931] ．特に，若い女は自分を殺すように書いてある手紙を別のデーモンのところに持っていかなく

ればならない [K978] (参照: 話型930). 若い女が危険から逃げるのをオオカミが助ける [B435.3]. お礼にオオカミは魔法を解かれる. オオカミは王子になり [D113.1] 若い女と結婚する. (旧話型428.)

コンビネーション 425A, 425C, 425E, 433B, 857.

注 最も早期の文献版は、紀元100年頃『変身物語 (Metamorphoses)』の「クピドとプシケ (Cupid and Psyche)」(IV, 28-VI, 24). 話型 425A と 425B には多くの構造的な類似性があり、しばしば類話がどちらかの話型に属するか明確に特定できない. この話型の不可欠な特徴は、小箱を求めての旅であり、第2の魔女の家の訪問を必然的に伴う. ふつう超自然の花婿は魔女の息子で、妻が課題を成し遂げるのを手伝う. スワーン (Swahn) (1955) によれば、旧話型428 は話型425B の断片である.

類話 (～人の類話) フィンランド; フィンランド系スウェーデン; エストニア; ラトヴィア; ラップ; コミ; スウェーデン; デンマーク; スコットランド; アイルランド; イギリス; フランス; スペイン; カタロニア; ポルトガル; フラマン; ドイツ; イタリア; コルシカ島; サルデーニャ; ハンガリー; スロバキア; マケドニア; ルーマニア; ブルガリア; アルバニア; ギリシャ; ポーランド; ロシア, ウクライナ; ベラルーシ; トルコ; ユダヤ; ウドムルト; トルクメン; カルムイク; シリア; パレスチナ, イラク; レバノン, パレスチナ; イラン; 中国; 日本; アメリカ; スペイン系アメリカ; メキシコ; ドミニカ; プエルトリコ; ベネズエラ; エジプト; タンザニア.

503 こびとたちの贈り物

背中にこぶのある男が、魔女または地下の住人たち (エルフたち, 妖精たち, こびとたち) の踊りに参加する [F331.1]. 男は彼らの歌を歌うか, または欠けている詩を加えるか, または続きの曜日を加える [F331.3, F331.4]. お礼にこびとたちは男の背中のこぶを取るか [F344.1], または男に黄金を与える [F342.1].

欲張りの隣人 (背中にこぶのある人物) が同じ褒美をもらおうとする. しかし彼は歌を台なしにするか, または不親切である. こびとたちは最初の男から取った背中のこぶを, 欲張りな隣人の背中のこぶに加えるか, 黄金ではなく炭を与える [J2415]. 参照: 話型480D*.

注 いくつかのモチーフは 17 世紀にアイルランドとイタリアにおいて現れている. 類話 (～人の類話) フィンランド; フィンランド系スウェーデン; ラトヴィア; リトアニア; ラップ; スウェーデン; フェロー; スコットランド; アイルランド; イギリス; フランス; スペイン; バスク; カタロニア; ポルトガル; オランダ; フリジア; フラマン; ワロン; ドイツ; オーストリア; ラディン; イタリア; ハンガリー; チェコ; スロベニア; ブルガリア; ギリシャ; ポーランド; トルコ; ユダヤ; ジプシー; モンゴル; シリア, レバノン, サウジアラビア; イラン; インド; ビルマ; 中国; 朝鮮; 日本; フランス系カナダ; アメリカ; スペイン系アメリカ; メキシコ, コスタリカ, パナマ; マヤ; ベネズエラ; ポリビア; ブラジル; チリ; 西インド諸島; アルジェリア; モロッコ; コンゴ.

515 羊飼いの少年

動物たちの世話をする捨て子が, 3 つの (ガラスの) 品を見つける. 捨て子はそれを持ち主たちに返していく. 持ち主たちは, 捨て子にお礼をすると約束する [Q42]. 最後の持ち主である巨人の助けで, 少年は 3 つの課題を成し遂げる. 少年は城を獲得する. その城には姫が閉じ込められている. 少年は姫を救い, 姫と結婚する [L161].

注 おもにスウェーデンで知られており、1844年にスウェーデンで記録されている。構成要素は他の説話でもよく知られている。

類話（～人の類話） リーヴ； スウェーデン； フラマン。

555 漁師とその妻

貧しい年老いた漁師が超自然の存在（魔法の魚 [B170]、その他の動物、神、聖者、鬼、動物の姿をした男）を苦境（死の危険、投獄、変身）から救う。または漁師が魚を水に戻してやる [B375.1]。お礼にこの魔法の力を持つ存在は漁師（と彼の妻）に、漁師の願いがすべてかなうようにする [D1761.0.1]。

最初のうち、漁師と妻は節度を持って役立てるが、しかし後に妻は極端に度を越した要求をする（例えば、彼らは貴族、王、そして最後に神にまでなりたがる）。魚（精霊）は贈り物を取り上げ、夫婦は以前の貧しい状態に戻るか、またはその上罰せられる [C773.1, J514, Q338, L420]（動物に変身させられる）。

コンビネーション 303, 563, 1960G.

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； リーヴ； ラトヴィア； リトアニア； ラップ； ヴェプス、ヴォート、リュディア、カレリア；スウェーデン； ノルウェー； アイスランド； アイルランド； イギリス； フランス； スペイン； カタロニア； ポルトガル； オランダ； フリジア； フラマン； ワロン； ドイツ； オーストリア； イタリア； サルデーニャ； ハンガリー； チェコ； セルビア； スロバキア； スロベニア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ； ポーランド； ロシア； ベラルーシ、ウクライナ； トルコ； ユダヤ； ジプシー； オセチア； チェレミス／マリ； モルドヴィア； レバノン、イラク； クウェート； インド； 中国； 朝鮮； インドネシア； 日本； フランス系カナダ、フランス系アメリカ； スペイン系アメリカ； キューバ、プエルトリコ； ボリビア； ブラジル； 西インド諸島； エジプト； リビア； チュニジア； ナミビア。

592 茨の中のダンス

悪い継母に家を追い出された [S322.4]（わずかな食べ物とともに奉公を解かれた [W154.1]）貧しい少年が、自分の持っているすべてのお金を物乞い（超自然の存在） [Q42.1] に施しとして与える。物乞いはお礼として少年に次の3つの願いをかなえる [D1761.0.2]。決して外れない鉄砲 [D1653.1.7]（石弓 [D1653.1.4]）、人を踊らせるバイオリン（フルート） [D1415.2.5]、その他の願いをかなえてくれる魔法の品、または魔法の力 [D1761.0.1]。

少年は（賭けをして [N55, N55.1]）鳥を撃ち、鳥は茨の茂みに落ちる。修道士（ユダヤ人、賭けに負けた者）が鳥を取ろうとすると、少年の魔法のバイオリンが修道士を茨の中で踊らせる。

少年は有罪の判決を下され、絞首台に連れていかれる。少年は最後にバイオリンを弾く許しを請う。裁判官と集まっていた人たちは皆、少年を解放するまで踊らなければならない [K551.3.1]。

コンビネーション 通常この話型は、1つまたは複数の他の話型のエピソード、特に300, 330, 475, 569, 650A, 725, 1000, 1009, 1045, 1062, 1072, 1159, 1653, 1910のエピソードと結びついている。

注 ヨーロッパにおける文学翻案は15世紀より（「修道士と少年（The Frere and the Boy）」と「ジャックと継母（Jak and his Step Dame）」）。

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； ラトヴィア； リトアニア

ア； ラップ； リーヴ， ヴェプス， カレリア； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； アイルランド； ウェールズ； イギリス； フランス； スペイン； バスク； カタロニア； ポルトガル； オランダ； フリジア； フラマン； ルクセンブルク； ドイツ； スイス； オーストリア； イタリア； コルシカ島； ハンガリー； チェコ； スロバキア； スロベニア； セルビア； クロアチア； ルーマニア； ブルガリア； ギリシャ； ポーランド； ロシア， ベラルーシ， ウクライナ； トルコ； ジプシー； アブハズ； アディゲア； モルドヴィア； シベリア； グルジア； シリア； 中国； インドネシア； フランス系カナダ； アメリカ； フランス系アメリカ； スペイン系アメリカ， メキシコ； ドミニカ， プエルトリコ； チリ； 西インド諸島。

611 デーモンたちの贈り物（旧， こびとたちの贈り物）

商人の息子が別の商人の娘といいなずけになる（商人の養子が商人の娘と恋に落ちる）。少年の父親が死ぬと、少女の両親は心変わりし、少年を追い出すために海に送り出す。

船は沈むが、少年は自力で（島に）逃れる。少年は（ライオン， オオカミ， ワシ， 竜， 悪人から）1 人の子どもを救い、お礼に魔法の薬（魔法の塗り薬 [D1500.1.19]， 病気を治す水）と魔法の剣（眼鏡， 双眼鏡， フルート， 笛， 骨， 武器）を女のデーモンたち（こびとたち [F451.5.1]， トロールたち， 巨人たち）からもらう

[D817.1]。魔法の薬を使って少年は病気の姫（王）を治療し、魔法の剣で敵の軍を打ち負かす

[D1400.1.4.1]。少年は金持ちになって戻り、子どものときに約束されていた（初恋の [T102]）花嫁と結婚する。

コンビネーション 531, 882, 930, 1060, 1650, 1651.

類話（～人の類話） フィンランド； リーヴ； ラトヴィア； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； アイスランド； アイルランド； ドイツ； ギリシャ； ポーランド； 中国； ヤクート； イギリス系カナダ。

665 鳥のように飛び， 魚のように泳いだ男

男（3 人の兄弟の末の弟， だまされた相続人）が， お爺さんをもてなしたお礼に（橋を建てたお礼に）

[E341] お爺さんから， または， 動物たちを助けてやり [Q42.1] そのことに感謝した動物たちから

[B350]， 陸， 空， 水の動物に変身する力を授かる [D630, D150, D170, D117.2]。

男はある王に仕える。王は戦争に出発するが、大切な物（魔法の剣 [D1081]， 魔法の指輪 [D1470.1.15]， 望遠鏡， 作戦書， 手袋）を1 つ（2 つ）忘れてくる。王は、忘れ物をすぐにとってくることのできる者に娘を与えると約束をする。

兵隊は助けを申し出る。兵隊は魚になって泳ぎ、鳥になって飛び、野ウサギになって走り、速く城に着く [D641]。兵隊は姫にさまざまな変身をしてみせる。姫は兵隊に忘れ物を渡し、兵隊のうろこ1 枚， 毛皮， 少しの柔毛， 羽根をもらう。

戻る途中、兵隊は妬み深い恋敵に殺される [K1931.3]。殺した男は忘れ物を持っていき、報酬を要求する。姫がもう1 度変身してみせるよう頼むと、ペテン師は失敗する。姫は彼との結婚を拒み、父親は姫を死刑にすると脅す。

魔法的援助者に [B515] 生き返らされた兵隊は、ぎりぎりの瞬間に到着し [N681]， 自分の正体を証明し（羽根 [H78.2] による本人の証明）， 姫と結婚する。ペテン師は死刑を宣告される。

コンビネーション 301, 301D*, 302, 316, 318, 400, 750A.

類話（～人の類話） フィンランド； フィンランド系スウェーデン； エストニア； ラトヴィア； リトアニア； ラップ； コミ； デンマーク； アイスランド； アイルランド； スペイン； ドイツ； ラディン； イタリア； ハンガリー； チェコ； スロバキア； スロベニア； セルビア； クロアチア； ポーランド； ソルビア； ロシア，ウクライナ； シベリア； フランス系カナダ； エジプト。

672 ヘビの冠（旧話型672A-672C を含む）

この雑録話型は、ヘビの冠 [D1011.3.1, B244.1] に関するさまざまな話型を包括する。

(1) 男がヘビの冠を盗む。ヘビが男を追ってきたとき、男は自分の衣服を後ろに投げる。料理人が冠を料理し、料理人は動物たちの言葉がわかるようになる [B165.1.2]（そして（または）、富を得る [B112]）。

（旧話型672A.）参照：話型673.

(2) ある少女が、ヘビが脱いだ（なくした） [B765.2] ヘビの冠（石）を見つける。ヘビはそのあと死ぬ（悲しみから自ら命を絶つ） [E714.2]。（旧話型672B.）

(3) 気立てのいい女中が（冠をかぶった）（病気の）ヘビにミルクを分けてやり [B765.6]（参照：話型285），農夫に追い出される。女中が（裕福な）羊飼いと結婚すると、ヘビはまだミルクのことを感謝していて、結婚式に現れ、金と銀でできた冠を脱ぐ [B112]。（旧話型672C.）

または、ヘビはミルクを分けてくれたことのお礼に自分の冠を女中に与える。後に女中は結婚式で、ヘビに助けてくれた礼を言って、冠を返す。

類話（～人の類話） フィンランド； ラトヴィア； エストニア； リトアニア； リーヴ；スウェーデン； イギリス； ドイツ； スイス； オーストリア； チェコ； スロバキア； スロベニア； クロアチア； ベラルーシ，ウクライナ； ポーランド； ソルビア； アルメニア； スリランカ； ナミビア，南アフリカ。

677 鉄は黄金より貴重

不幸な男が、自分はどうしたらいいのか王に助言を求める。姫は男に結婚するよう助言する。なぜなら妻の（子どもたちの）幸運が彼の不運を帳消しにしてくれるかもしれないからである。王は男に姫と結婚することを許す。

姫が彼女の刺しゅうを男に売りに行かせると、男はそれを（3つの）いい助言と取り替える。男は無一文で家に帰る勇気がなく、船上の仕事を見つける。船が進まなくなると、男は修理するために海の底に行かされ、そこで男は、黄金（ダイヤモンド，銀，銅）と鉄（鋼，銅）のどちらがより貴重か（より役立つか，硬いか）という2人の精霊の言い争いを仲裁する。男は（最初のいい助言に従って）（如才ない）答えをする。男はお礼に（貴重な）石の入った袋をもらい、船に戻る。

商人たちといっしょに、男は見知らぬ国に到着する。そこで男は宝石のために王に気に入られる。商人たちは嫉妬して、自分たちのうち誰がいちばん金持ちか賭けをする。2つ目の助言に従って男は賭けに勝ち、それで船と召し使いを皆手に入れる。男は旅と商売を7年から30年続ける。最後に男は家に戻り、妻が2人の見知らぬ男の間で寝ているのを見る。

男が3人をまさに殺そうとしたとき、男は行動する前に考えよという3つ目の助言を思い出す。男は2人の男が成長した自分の息子だとわかる。参照：話型910B.

コンビネーション 910B, 986.

注 話型677 と986 は明確に区別されていない。

類話（～人の類話） フィンランド； エストニア； ラトヴィア； リトアニア； ヴェプス，リュディア，カレリア，コミ； ロシア，ベラルーシ，ウクライナ； チェレミス／マリ； アゼルバイジャン； タジク； レバノン，イラク，エジプト，アルジェリア，スーダン。

809** 善行のためにお礼をもらったお爺さん

お爺さんが（お金を与えて）物乞いが家建てのを助ける。お爺さんは家を見に行き，気づくと天国にいる。

類話（～人の類話） セルビア； クロアチア； マケドニア； ロシア，ウクライナ； ユダヤ。

871 姫と鬼女

禁じられた部屋を覗いた姫が [C611]，ある男の肖像画を見て恋をする [T11.2]。魔法使いが鳥の姿になって，姫を恋人のところへ連れていく。

あるとき彼らは長居しすぎる。太陽が彼らを見つけ，魔法使いは破裂して死ぬ [D567]。姫は独りで残され，宮殿の召し使いになる。宮殿で姫は，人食い姫におびやかされる [G11.3]。姫は狭い窓を通過して逃げ，井戸をおりると，井戸は彼女を地下世界へと導く [F93.0.2.1]。地下世界で姫は悪魔の親玉に会う。悪魔の親玉は人食い姫の脳みそを煮ている [D2065.4]。姫は鍋をさかさにひっくり返して [C325]，井戸に戻る。人食い姫はもうふつうになっている。親切な行為へのお礼として，姫は恋人の家へと送り届けられる。姫は恋人が別の女とまさに結婚しようとしているときに到着する [N681.1]。恋人は姫のことがわかり，姫と結婚する。

参照：話型 475。

類話（～人の類話） ノルウェー； フランス； ポルトガル； ドイツ； ギリシャ； トルコ； ユダヤ； パレスチナ，イラク； モロッコ。

1391 どの穴も本当のことを言う（おしゃべりな宝石（Les bijoux indiscrets））

男が，物乞い（ダルヴィーシュ（イスラムの修行僧），兵隊）を助けて，お礼に3つの魔法の品をもらう。そのうちの1つは，すべての穴を話せるようにする棒である。

男は結婚しようと思っている女に対し，女が寝ている間にこの棒で女の貞操をテストする [D1610.6.1, H451, K1569.7]。3人の女（商人の娘，役人の娘，貴族の娘）がこのテストで失格し，男は最終的に「純潔な」羊飼いの女と結婚する。

拒絶された女たちの父親は，娘を中傷したとして男を告訴する。娘たちは再びその棒でテストされる。最初の娘のワギナは，その娘はみだらだったと認める。2人目の女はワギナに麻を詰めるが，肛門が話す。3人目の娘はワギナと肛門を黙らせるが，耳の穴が結婚前に性交をしていたことを認める。

注 ノヴェラふうの伝承では，笑話としてよく知られている。例えば，セルカンビ（Sercambi）（No. 102），ギャリン（Garin）のファブリオー「膻と尻に口をきかせた騎士（Le Chevalier qui faisait parler les cons et les culs）」，デニス・デイドロの『おしゃべりな宝石（Les Bijoux indiscrets）』（1748）を見よ。

類話（～人の類話） リトアニア； スウェーデン； ノルウェー； デンマーク； ポルトガル； ドイツ； イタリア； ハンガリー； クロアチア； ブルガリア； ポーランド； ベラルーシ，ウクライナ； トルコ； シリ

ア； サウジアラビア； インド； ポリネシア； マヤ.

質問は以上です。